

生活安全部門 アーカイブズ分野の活動

代表者：矢田 俊文

構成員：池田 哲夫、飯島 康夫、原 直史、古賀 豊

分野の目的

本分野の平成18年度の活動の中核とするプロジェクト名は、「震災記録資料に関する調査研究プロジェクト」である。「震災記録資料に関する調査研究プロジェクト」では、中越地震被災地から救出した記録資料の調査研究を通じて被災地域の文化復興のための基礎資料を作成する。さらに、関東大震災（新潟県関係）・新潟地震等震災関連記録資料の調査研究を行うことを通じて、今後の震災記録資料の保存と活用の方策を計る。

本年度の活動総括

資料保存研究セミナー「歴史資料の現地保存への取り組み－中越地震被災経験をふまえて－」を開催し、これまでの被災地域の文化復興の取り組みをまとめた。また、被災し解体された山古志民俗資料館の設立経緯と収蔵資料の現状を調査した。さらに、関東大震災等、新潟県に残る震災関連資料の調査を行った。年度末には、本分野の調査研究誌『災害と資料』第1号を刊行した。

活動計画

当初の計画は、以下のとおりであった。

平成18年度は、災害と記録資料に関する調査研究のための研究会（「災害と資料研究会」）を災害復興科学センター内アーカイブズ分野に設置し、公開研究会を開催し、調査研究誌（『災害と資料』第1号）を刊行する。

また、小千谷市などの中越地震被災地から救出した記録資料の調査研究を行う。さらに、新潟県に関する関東大震災関係の記録資料の収集と分析を行い、新潟地震の記録資料の保存状況を調査し、災害記録資料の保存のあり方について検討する。大枠では計画通りに行ったが、セミナーの開催等の関係で計画を修正し活動を行った。詳細は、活動内容をご覧ください。

活動内容

活動の中核とするプロジェクト

テーマ1：災害と記録資料に関する調査研究のための研究会の開催と調査研究誌（『災害と資料』第1号）の刊行

テーマ2：中越地震被災地から救出した記録資料の調査研究と関東大震災等災害記録史料の調査

具体的活動内容

テーマ1：災害と記録資料に関する調査研究のための研究会の開催と調査研究誌（『災害と資料』第1号）の刊行について

（目標）中越地震被災地から救出した記録資料の調査研究を通じて被災地域の文化復興のための基礎資料を作成する。

（計画）平成18年度は、災害と記録資料に関する調査研究のための研究会（「災害と資料研究会」）を災害復興科学センター内アーカイブズ分野に設置し、公開研究会を開催し、調査研究誌（『災害と資料』第1号）を刊行する。

テーマ2：中越地震被災地から救出した記録資料の調査研究と関東大震災等災害記録史料の調査

（目標）新潟県に関する関東大震災関係の記録資料の収集と分析を行い、新潟地震の記録資料の保存状況を調査し、災害記録資料の保存のあり方について検討する。

（計画）中越地震被災地から救出した記録資料の調査研究を行う。さらに、新潟県に関する関東大震災関係の記録資料の収集と分析を行い、新潟地震の記録資料の保存状況を調査し、災害記録資料の保存のあり方について検討する。

活動実績・成果

テーマ1：災害と記録資料に関する調査研究のための研究会の開催と調査研究誌（『災害と資料』第1号）の刊行について

災害と記録資料に関する調査研究のための研究会を2006年12月に予定していたが、資料保存研究セミナー「歴史資料の現地保存への取り組み－中越地震被災経験をふまえて－」の開催日程が重なったため、本年度は研究会を独自に開催することは断念し、資料保存研究セミナーに代えることとした。そのかわり、資料保存研究セミナーの報告を、『災害と資料』第1号に掲載することができた。

資料保存研究セミナーの趣旨は、2004年10月23日に発生した「新潟県中越地震」から2年余が経過した地震後の歴史資料の現地保存活動の2年間の取り組みの報告を聞き、災害と資料保存について考えるというものである。

なお、資料保存研究セミナーの様子は、12月10日付『新潟日報』に、「被災史料どう救済 長岡で保存研究セミナー」という記事で紹介されている。

資料保存研究セミナー

歴史資料の現地保存への取り組み－中越地震被災経験をふまえて－

日時：2006年12月9日（土）13：30～17：00

会場：長岡市立中央図書館講堂

報告

「長岡市立中央図書館文書資料室の取り組み－災害後の歴史資料の保存と活用－」

金垣孝二（長岡市立中央図書館文書資料室長）

田中洋史（同文書資料室嘱託員）

「十日町情報館の取り組み」

高橋由美子（十日町情報館事業係主任）

「山古志からの民具・文書救出の取り組み」

田辺 幹（新潟県立歴史博物館主任研究員）

「『資料保存と防災対策』全史料協資料保存委員会の考え方」

伊藤 然（全国歴史資料保存利用機関連絡協議会資料保存委員会）

パネルディスカッション

パネラー：山本幸俊（上越市公文書館準備室）・金垣孝二・田中洋史・高橋由美子・田辺幹・伊藤然

司会：矢田俊文（新潟大学災害復興科学センターアーカイブズ分野代表）

主催：全国歴史資料保存利用機関連絡協議会資料保存委員会

共催：長岡市立中央図書館文書資料室，新潟大学災害復興科学センターアーカイブズ分野，新潟歴史資料救済ネットワーク，新潟史学会

後援：企業史料協議会，日本図書館協会，記録管理学会，日本アーカイブズ学会，アートドキュメンテーション学会，大学図書館問題研究会，情報保存研究会，歴史資料ネットワーク，全国大学史資料協議会，新潟歴史資料保存活用連絡協議会，朝日新聞新潟総局，産経新聞新潟支局，長岡新聞社，新潟日報社，日本経済新聞社新潟支局，毎日新聞新潟支局，読売新聞新潟支局，NHK新潟放送局，BSN新潟放送，NST新潟総合テレビ，TeNYテレビ新潟，UX新潟テレビ21，FM PORT79.0，FMながおか，エフエムラジオ新潟

報告はあらためて執筆していただき，本分野の調査研究誌『災害と資料』第1号（2007年3月）に掲載した。目次は以下のとおり。

なお、『災害と資料』第1号については，2007年3月30日付読売新聞文化欄に紹介されている。

『災害と資料』第1号

総102頁，2007年3月，新潟大学災害復興科学センターアーカイブズ分野

目次

「長岡市立中央図書館文書資料室の取り組み－災害後の歴史資料の保存と活用－」

金垣孝二（長岡市立中央図書館文書資料室長）・田中洋史（同文書資料室嘱託員）

「十日町市における被災資料の緊急避難と整理－市民と行政の連携の試み－」

高橋由美子（十日町情報館事業係主任）

「新潟県立歴史博物館の取り組み－山古志からの民具・文書資料の救済を中心に－」

田辺 幹（新潟県立歴史博物館主任研究員）

「資料保存と防災対策－全史料協資料保存委員会の考え方－」

伊藤 然（全国歴史資料保存利用機関連絡協議会資料保存委員会）

「災害前の歴史資料保存の取り組み－「ふくしま文化遺産保存ネットワーク」の設立を通じて－」

山田英明（福島県歴史資料館副主任学芸員）・響田克史（同副主任学芸員）

「災害から地域文化遺産を守る－日常的な文化遺産保存継承・活用の中にもまれる防災活動としての試み－」

手代木 美穂（東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター）

「山古志村民俗資料館と収蔵民具」

飯島康夫（新潟大学災害復興科学センターアーカイブズ分野）

「関東大震災に関わる直江津町役場文書－『京浜大震災救済書類』－」

山本幸俊（上越市公文書館準備室指導主事）

「坪谷善四郎書翰・日記にみる一八九四年明治東京地震・一八九五年茨城県南部の地震」

矢田俊文（新潟大学災害復興科学センターアーカイブズ分野）

金垣・田中論文は，長岡市立中央図書館文書資料室の中越大震災後の歴史資料の保存と活用に向けた取り組みについて報告し

たもので、災害対応業務のあらし、文書資料室の個別の業務、文書資料室と協働で資料整理を進めている長岡市資料整理ボランティアの活動について説明されている。長岡市資料整理ボランティアは、平成18年11月現在、登録人数が75人、活動回数が37回、のべ参加者数が575人になっているという。

高橋論文は、膨大な被災資料に圧倒されそうになりながら、「市民と行政との連携」という手法を主軸に進めた新潟県十日町市における古文書等歴史資料の緊急避難事業および資料整理の取り組みを紹介したものである。被災した歴史資料を活用可能な状態にしていくために、古文書整理ボランティアを公募し、専門家ではない市民の手で歴史資料の整理作業を進め、平成18年(2006年)12月末日現在でのボランティア参加者延べ数は、2,348名に及ぶという。

田辺論文は、新潟県立歴史博物館の文化財救出活動を紹介したもので、主に2つの取り組みについて述べられている。1つは、新潟歴史資料救済ネットワークと連携して取り組んだ小千谷市A家からの資料運び出しの取り組みで、2つ目は、中越地域被災文化財委員会(新潟県教育委員会文化行政課、山古志村民俗資料館〈長岡市教育委員会山古志分室〉、柏崎市立博物館、長岡市立科学博物館、長岡市立中央図書館文書資料室、新潟県立歴史博物館)を新潟歴史資料救済ネットワークが応援することによって行われた山古志村からの資料救済の取り組みである。平成18年12月現在で、新潟県立歴史博物館が救済、一時預かりなどで関わった文化財は、計27件、2万点余りにのぼるといふ。

伊藤論文は、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会資料保存委員会の資料保存と防災対策についての考え方を述べたものである。

テーマ2：中越地震被災地から救出した記録資料の調査研究と関東大震災等災害記録史料の調査

主な活動は、以下の2点である。

(1) 山古志村民俗資料館について

アーカイブズ分野構成員飯島康夫が担当した。旧山古志村の資料館として数多くの民俗資料を収蔵し、展示してきた山古志村民俗資料館(長岡市合併後は山古志民俗資料館)が設立されてから、2004年10月の中越地震被災をへて解体されるまでの経緯を調査し、そこに収蔵されていた資料の現状を明らかにした(写真1,2)。このことを通じて飯島は、資料館に収蔵されていた民具には、それに関わってきたさまざまな人々の「思い」が蓄積されている。その「思い」を語ることでできる民具の新しい居場所が整備されることを願う、と述べる(飯島康夫「山古志村民俗資料館と収蔵民具」『災害と資料』第1号)。

山古志村民俗資料館からの民具の搬入先のひとつ新潟県文化財収蔵庫(新潟市曾和)で民具の調査もおこなった(8月29日～31日)。資料を収蔵庫から搬出し、ブルーシートの上でクリーニングを行い、資料カードにスケッチを描き、観察記録を記入し、付票のある資料はそれをカードの欄に転記してから、整理番号札をつけてデジタルカメラで写真を撮るといふやり方で行われた。また、長岡市科学博物館の山崎進学芸員および長岡市教育委員会山古志分室の職員(高橋順治分室長、関静子係長、長島大輔主事が交代で1名ずつ)が毎日立会い、また、旧山古志地区の民具に詳しい、山古志種芋原の坂牧吉太郎氏、虫亀の酒井一郎氏、池谷の青木幸七氏、榎木の畦上多作氏にも来ていただき、資料カードの充実をはかることができた(飯島康夫前掲「山古志村民俗資料館と収蔵民具」)。



写真-1 中越地震被災後の山古志民俗資料館(2005. 5. 22)



写真-2 山古志民俗資料館跡地(2006. 9. 11)

(2) 関東大震災等災害記録史料の調査について

a. 坪谷善四郎書翰・日記について

アーカイブズ分野代表矢田が主に担当した。新潟大学附属図書館所蔵の本田卷家文書所収の1895年(明治28)1月21日付田巻三郎兵衛宛坪谷善四郎書翰と新潟県加茂市立図書館所蔵坪谷善四郎日記の調査を行った。その結果、1894年明治東京地震・1895年茨城県南部の地震について、次のことを明らかにした(矢田俊文「坪谷善四郎書翰・日記にみる一八九四年明治東京地震・

一八九五年茨城県南部の地震』『災害と資料』第1号)。

- 1 明治27年6月20日の地震は、午後2時5分に起きた。
- 2 明治28年1月18日の地震は、夜10時50分に起きた。
- 3 明治27年3月20日と明治28年1月28日の2つの地震を東京で体験した坪谷善四郎は、明治28年1月18日の地震は、やや強震であったが、明治27年6月の地震と比べれば軽少であったと感じていた。

坪谷善四郎は、文久2年(1862)2月26日、狭口村(現新潟県加茂市)に生まれ、明治19年1月、東京専門学校に入り、明治21年3月より同校に在学のまま、新潟県長岡生まれの大橋佐平が明治20年に起こした会社、博文館の社員となった人物である。坪谷の日記には、1923年の日記も残っており、現在、翻刻中である。関東大震災の被害のみならず、復興過程についても記しているの



写真-3 資料カード作成(2006. 8. 29)

で、日記の詳細な分析を行いたいと考えている。

関東大震災については、山本幸俊氏にご寄稿いただいた(「関東大震災に関わる直江津町役場文書-『京浜大震災救済書類』-」『災害と資料』第1号)。山本論文は、新潟県上越市公文書館準備室に所蔵されている直江津町役場文書『京浜大震災救済書類』(大正12年)を紹介したものである。直江津町は直江津市となり、昭和46年高田市と合併して上越市となり、直江津町役場の公文書116簿冊が上越市に引き継がれて、その中に『京浜大震災救済書類』がある。同資料の大半は、直江津町役場が取り扱った被災地への義捐品・救恤品・救護・避難民に関するもので、自主的なボランティア的活動の存在もうかがわれ、さらに震災救援事務を担当する新潟県救護事務所が東京の田端第一小学校に開設されたことなどがわかる、とする。

テーマ3：その他-災害前の文化財・歴史資料保存の取り組みについて

兵庫・宮城・新潟は、地震後に文化財・歴史資料保存の活動がはじまったが、全国では山形・福島・静岡など、災害前の文化財・歴史資料保存の取り組みが考えられるようになっている。

福島県のとりくみについて、山田英明・轡田克史氏に、「災害前の歴史資料保存の取り組み-「ふくしま文化遺産保存ネットワーク」の設立を通じて-」、山形県の取り組みについて、手代木美穂氏に、「災害から地域文化遺産を守る-日常的な文化遺産保存継承・活用の中に含まれる防災活動としての試み-」をご寄稿いただいた。

業績等

●新聞・報道等(投稿記事を除く)

- ・被災史料どう救済 長岡で保存研究セミナー, 新潟日報, 2006年12月9日, 矢田俊文

●著書・論文

- ・矢田俊文:地震から文化財を守るために, 北原糸子編『日本災害史』吉川弘文館, pp.420-421, 2006
- ・矢田俊文:中越地震における文化財被災と救出, 文化財保存修復学会編『私たちの文化財を救え!!』クバプロ, pp.69-73, 2007
- ・矢田俊文:新潟県中越地震における文化遺産救出活動について, 『静岡県の歴史文化遺産』1号, 財団法人伊豆屋伝八文化振興財団紀要, pp.67-74, 2006
- ・矢田俊文:坪谷善四郎書翰・日記にみる一八九四年東京地震・一八九五年茨城県南部の地震, 『災害と資料』1号, 12-14, 2007.
- ・飯島康夫:山古志村民俗資料館と収蔵民具, 災害と資料, 第1号, pp.72-87, 2007

●その他の報告

- ・矢田俊文:新潟県中越地震における文化財・歴史資料の救出活動『人と文化遺産保存継承ミーティング, 第1回「地域の文化遺産を災害から救出する活動を学ぶ」東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター, pp.5-18, 2006